

第37号 (2020年冬~2021年)

編集・発行 千葉市動物公園ボランティアーズ

千葉市動物公園の



# 見どころ



## 特集 意外にかわいい ブチハイエナ

2020年、シンガポール動物園からはるばる千葉市にやってきたブチハイエナのイトゥバ。コロナ禍のトラブルのため、予定されていた他のハイエナの来園が遅れ、1頭だけの展示となりましたが、ハイエナの悪いイメージをくつがえす愛らしさで大人気となっています。

### 《 どういう動物か 》

一見するとイヌに似ていますが、イヌの仲間ではなく、食肉目ハイエナ科という独立した分類になっています。ハイエナ科にはブチハイエナ、シマハイエナ、カッシュクハイエナ、アードウルフの4種があります。(ほかの3種については裏面に)

ブチハイエナは、体重40-86kgと、その中では最大種。サハラ砂漠などの一部地域を除き、アフリカ大陸に広く分布しています。骨をも砕く頑丈なアゴと歯により、噛む力はとても強く、肩回りが発達、それを支える前足が発達しているため、後ろ足が短くちょっと貧相に見えますが、噛みちぎるには都合の良い体型をしています。

寿命は野生下で20年位、飼育下25年くらいです。乳離れ後、狩りに参加し始め、オスは2~3年、メスは3~4年で繁殖年齢に達します。社会性に富む動物で、30~80頭の群れを作り、それぞれの群れは生活の中心となる巣穴を持ちます。群れの頂点に立つのはメスのリーダー(アルファメス)で、序列がきびしく決まっています。また、メスの方がオスより一回り大きく、総じてオスは常に下位の存在です。

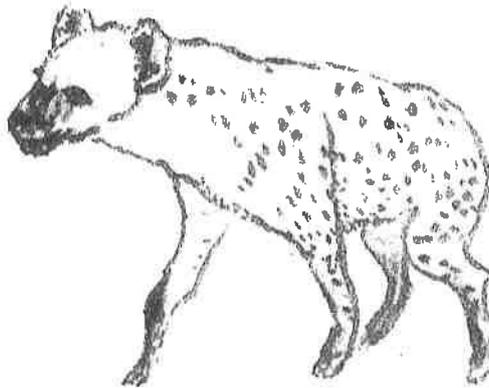
アルファメスの産んだ1番新しいメスが次のアルファを継ぐ決まりがあり、毎日順位確認のため、においを嗅ぎ、順位の低い者が後ろ足を上げて挨拶をします。捕らえた獲物は順位の高いメスから食べ、年上でもオスは最後になります。

### 《 食べ物を横取りするひきょう者? 》

アフリカの草原で、ライオンとともに肉食獣としてねらう獲物がほぼ同じため、両者はつねにライバル関

係にあります。いつも獲物を横取りしているイメージが強いハイエナですが、実際は60%以上自分たちで狩りをしています。時速65kmで走ることができる脚力とスタミナを持ち、忍耐強い頭脳プレーで獲物を捕らえます。

がんじょうなアゴと歯を持ち、噛む力は320kg。ライオンが食べ残す骨まで全部食べ尽くし、強力な胃酸で消化します。くさった肉を食べても強い酸で菌を殺してしまうため、具合が悪くはなりません。腐肉を食べるハゲワシ、フンをエサにするフンコロガシと共に、草原のおそうじ屋と呼ばれています。



### 《 鳴き声がブキミ? 》

人の笑い声に似た声で鳴きかわすことがあり、不吉な動物としていやがられたこともあるようですが、大きな群れを作るブチハイエナにとっては声によるコミュニケーションが欠かせず、12種類の鳴き声を使い分けられていると考えられています。笑い声に似た声もあることで「ワライハイエナ」と呼ばれることも。

飼育員さんによると、イトゥバは今のところ3種類くらいの声しか出していません。今後ハイエナの仲間が増えれば、もっと色々な声でおしゃべりしてくれるかもしれませんね。

### 《 性別不明のヘンな動物? 》

ブチハイエナのメスは、オスよりもからだが大きくオスとよく似た形の生殖器せいしょくきを持っています。そのため、見た目ではオスメスの区別がむずかしいです。昔の人

(表ページより)

は、雌雄同体の不気味な動物としてよく思わないこともあったようです。また、実際に、2014年に北海道の円山動物園で繁殖を試みていたブチハイエナが、両方ともオスだったという事例もあります。

メスは、この男性器のようなところから子を産みます。その出産は、とてつもなく難産です。細くて長い産道を通して生まれてくる子どもの6割は死産、2割の母ハイエナは初産のときに命を落とすそうです。こんな危険を冒してまで、なぜメスはオスのような外見をしているのか、くわしい理由はいまだわかっていません。

## イトウバ (Ituba)

プロフィールと

当園での飼育

2016年11月17日

シンガポール動物園で

生まれる。メス

名前の意味は「チャンス」

体長約120cm、

体重約65kg

エサ：1日あたり馬肉1.3kg 鶏頭1.3kg

たまに鶏頭の代わりに丸鶏を与える

3日に1回絶食日があります。(野生では毎日食餌をとっているわけではないので、自然に近いライフ・スタイルのほうが健康によいと考えられています。)

池に入るのが好きで、温泉につかっているみたいに池の中にすわって来園者を観察していることがよくあります。(ブチハイエナはみんな水に入るのは好きなようです。)

穴を掘る性質があるので、脱走できないよう展示場の地面の下には金網が張りめぐらされています。

「性格は意外と神経質で臆病。人の性別をわかっているらしく、女性よりも男性に対してきびしい態度をとります。」

(飼育員さん談)



中村さん

佐藤さん

(当園の飼育担当者)

## ハイエナの仲間たち

(当園では飼育していません)

### ■シマハイエナ

(別名タテガミイヌ)

体長100~120cm 体重37~55kg

分布：アジア~アフリカ北部。準絶滅危惧種。

ブチハイエナと毛色は似ているが、背中に黒いタテガミを持ち、胴体と足に黒色の縞模様がある。全身の毛を逆立てて体を大きく見せて、相手を威嚇する。



群れを作らず、オスとメスは繁殖期だけ一緒にいる。

### ■カッシュクハイエナ

(別名チャイロハイエナ)

体長110~140cm 体重40~55kg

分布：アフリカ南部

ハイエナの中では最も数が少なく、絶滅危惧種。

毛色は濃褐色だが首まわりは黄褐色をしている。足の毛も黄褐色で、黒色の横縞がある。長い体毛が胴体をおおっていて、危険を感じると全身の毛を逆立てて威嚇する。数頭の小さな群れで生活することが多い。



### ■アードウルフ

(別名ツチオオカミ)

体長55~80cm 体重8~14kg

分布：アフリカ東部と南部

毛色は灰色や黄褐色、赤褐色で、胴体と足に黒い縞模様がある。首から尾にかけて背中にタテガミ状に長い毛が伸びている。前足の指が5本(他のハイエナは前後足ともに指が4本)。昆虫食でシロアリを主食とし、一晩に20万匹食べるといわれている。

一夫一婦制で子と家族単位で生活している。

